

12月8日(水) 国内初の「コアラ会議」～コアラ人工授精に望み

国内のコアラが激減している事態を憂慮し、九州で唯一7頭のコアラを飼育する本市の平川動物公園が国内でコアラを飼育する動物園(名古屋市東山動物園、神戸市王子動物園)の関係者と、オーストラリア・クイーンズランド州から専門家を招いて、国内で初となる「コアラ会議」を開催しました。会議では、国内やオーストラリアでのコアラ飼育の現状や課題、人工授精による繁殖方法などについて、活発に意見交換が行われました。

【市内ホテル(城山町)】



森市長は「本会議が、コアラの種の保存や繁殖育成に大きな成果をあげることを期待する」とあいさつ。



豪州動物園水族館協会のミシェル・バーンズ氏が、コアラの飼育状況などをスライドを使って報告しました



平川動物公園の石堂園長は「大変有意義な会議だった。新たな個体の日本への提供可能性も含めて、今後お互いに情報交換を密にし、連携を継続していきたい」と総括しました。



オーストラリアクイーンズランド州からの参加者(写真右から)ドリームワールドの獣医ベレ・ニコルソン氏、豪州動物園水族館協会のミシェル・バーンズ氏、オーストラリア動物園の園長ケルシー・モスティン氏、

【市長コメント】

「コアラ会議」については、昨年、私がクイーンズランド州を訪問した際、近年、繁殖が進まず飼育頭数が減少しているコアラの今後の種の保存について協議する会議を開催したいと申し入れたのがきっかけである。本日、オーストラリアのコアラ飼育の専門家や、国内のコアラを飼育している動物園の方々の参加を得て、「コアラ会議」が開催できたことは大変感慨深いものがある。

会議において活発な意見交換がなされたことは、今後のコアラの種の保存に向けた両国の関係を結ぶ貴重な機会となったと思う。

本日、出された意見等を各園で参考にしていただき、コアラの繁殖に努めていただくとともに、今後も継続した相互の交流を図り、将来的には新しい個体の導入など実り多い成果を収めることができるよう大いに期待しているところである。